

代議士はなぜ国会で発言をするのか 衆議院本会議における発言数と選挙の関係



拓殖大学 政経学部
4年 経済学科 北島啓喜
3年 法律政治学科 加瀬健一郎
3年 法律政治学科 山崎詩織

1

目次

1. はじめに
2. 目的・結論
3. 先行研究
4. 当選タイプと発言数
5. 理論と仮説の提示
6. データ
7. 分析結果
8. 結論
9. 今後の課題

2

議員発言数ランキング TOP 10

順位	名前	政党	発言数
1位	野田佳彦	民主党	362303
2位	菅直人	民主党	289118
3位	鳩山由紀夫	民主党	172082
4位	谷垣禎一	自民党	89096
5位	原口一博	民主党	56451
6位	長妻昭	民主党	51030
7位	重野安正	社民党	45120
8位	前原誠司	民主党	36788
9位	川端達夫	民主党	36266
10位	渡辺喜美	みんなの党	29182

第172回国会本会議(2009.9.16召集) から
第181回国会本会議(2012.11.16閉会) までの 計10回
国会議事録検索システム <http://kokrai.ndl.go.jp/>

3

目的

- 国会議員の行動の一つである国会での発言に着目し、議員の発言数の差は何によって決定されるのか、ということを実証的に分析する
- 国会の発言数の差の要因として代議士の発言に「選挙結果」が影響しているかを分析する

4

結論

- 「小選挙区当選の衆議院議員においては、発言数と接戦度は関係がない」
= 選挙結果は代議士の発言数に影響しない
- 政党は、選挙に弱い議員を優先的に発言させるわけではない

5

先行研究

- ① 国会での発言は選挙に向けてのアピールであり、選挙で弱く当選回数が少ない議員ほど地元利益に関する委員会で発言をしている(福元 2011, p.152, p161)
- ② 福元 (2011) を計量分析
選挙で弱い議員ほど委員会で発言をする
(松本・松尾 2010, pp.97-99)
- ③ 議員の発言は有権者の投票行動に寄与する
(川湊 2013)

6

衆議院議員の当選タイプと 国会議員の発言数

当選方法	平均発言数	最大発言数	最少発言数	議員数
小選挙区当選	3303.4	89096	0	252
復活当選	4033.2	24795	0	95
比例区単独当選	6766.8	79986	0	82

- ・第172回国会本会議(2009.9.16召集) から
- ・第181回国会本会議(2012.11.16閉会) までの 計10回
- ・国会議事録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp/>

7

理論

- 「議員は目標をもち、それを目指して合目的に行動する」(建林 2004, p.17)
- 「議員の目標には『再選、昇進、政策の実現』という3つが考えられている」(建林 2004, p.17)
- 「政党指導部が目指す党としての目標には、議席の最大化を目指すことも含まれる」(松本・松尾 2010, p.84)

理論：

政党や政治家は当選のために戦略的な行動をとる ⁸

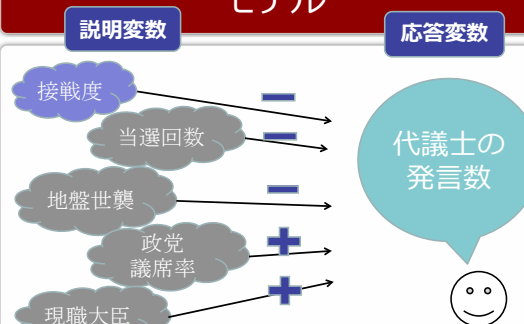
仮説

仮説：

前回の衆議院議員選挙で接戦であった議員ほど、国会で発言する。

9

モデル



10

接戦度とは

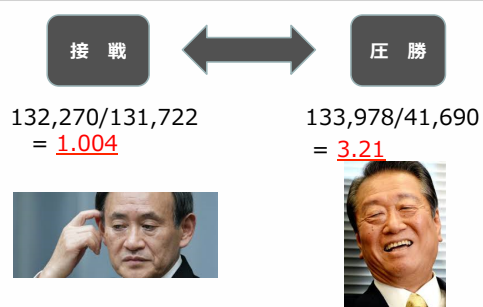
$$\text{接戦度} = \frac{\text{当選者の得票数}}{\text{次点の立候補者の得票数}}$$

「接戦」であった議員は、当選した自分の票数と次点候補者票数の差は小さいので接戦度は1に近くなる。

逆に「余裕」で当選した議員は、自分の得票数と次点候補者票数の間は大きくなるので、接戦度は1より大きくなる。

11

接戦度の例



12

データ

- 応答変数
 - 第172回国会本会議(2009.9.16召集) から
 - 第181回国会本会議(2012.11.16閉会) までの計10回
 - 国会議事録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp/>
- 説明変数
 - 「接戦度」 → 2009年の衆議院議員選挙
- コントロール変数
 - 「当選回数」「地盤世襲」「政党議席」「現職議員」

13

記述統計

変数名	平均	標準偏差	最大値	最少値
発言数	4617	9109.3	89096	0
接戦度	1.45	0.39	3.09	1.004
当選回数	3.68	2.78	14	1
地盤世襲	0.14	0.35	1	0
議席率	52.65	19.84	64.02	0.2
大臣ダミー	0.14	0.35	1	0

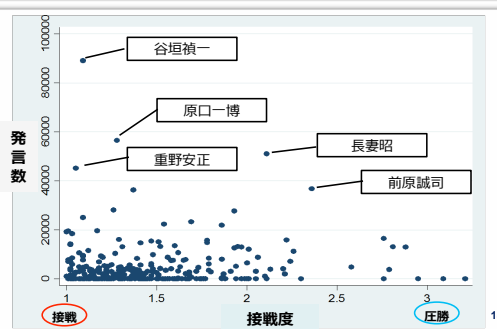
N=295

分析対象：議員個人

注)総理大臣経験者(鳩山由紀夫、菅直人、野田佳彦)
衆議院議員議長(横路孝弘) 外れ値の(渡辺善美) は除外

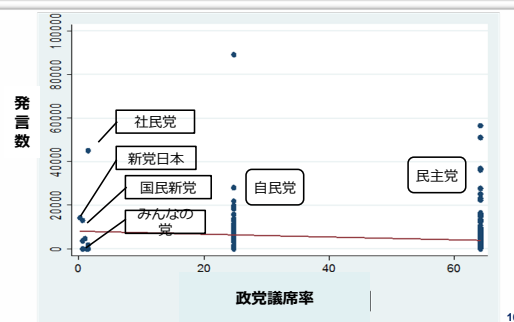
14

「発言数」と「接戦度」の散布図



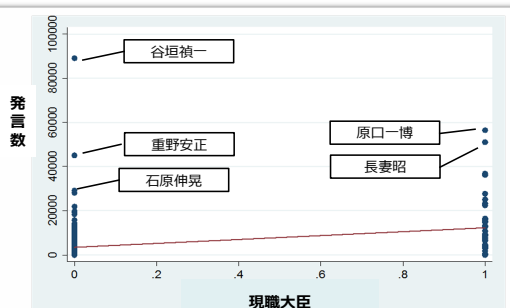
15

「発言数」と「政党議席率」の散布図



16

「発言数」と「現職大臣」の散布図



17

重回帰分析による結果

説明変数	予測	結果	P値	Bata値
接戦度	—	−204.7	0.873	0.009
当選回数	—	115.6	0.610	0.036
地盤世襲	—	977.2	0.549	0.038
議席率	—	−78.8 **	0.005	0.172
現職大臣	+	9432.6***	0	0.366
観測数		295		
Prob>F		0		
補正R ²		0.149		

有意確率*** p < 0.01、** p < 0.05

18

結論

- 当選結果と発言数
比例区単独当選 > 復活当選 > 小選挙区
- 分析結果
 - ・「小選挙区当選の衆議院議員の発言数と接戦度は関係がない」
 - ・弱い議員ほど国会で発言をするわけではない
 - ・政党も弱い議員に優先的に発言させるわけではない

19

今後の課題

- 先行研究の結果と違った理由
- 「発言数」の内容を分析してより踏み込んだ分析をする

東洋経済ONLINE「国会議事録をデータマイニングする」藤末健三
<http://toyokeizai.net/articles/-/61>

20

ありがとうございました